

自他を尊重し 志をもって努力を重ね 主体性を高める緑学年

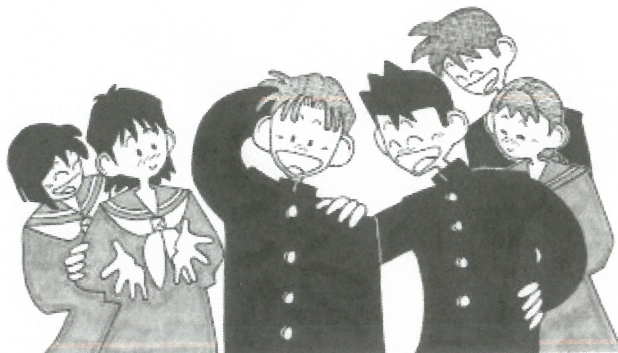
上記が今年度緑学年の学年目標になります。

「自他を尊重する」について、皆さんは何もしなくてもそこに居るだけで価値のある大切な存在ということです。そういった自己受容感をもってください。そうすると、周りにいる人たちも同様の存在であることに気付くことができ、人との関わり方も優しくなれると思います。

「志をもって努力を重ねる」について、何を成すにもまず志をもつことが大切ということです。志がなければ「何をすればいいのだろう。」「何のために自分は努力しているのだろう。」と、自分がやるべきことが分からなかったり、やることの意義を見出せなかったりするものです。志をもつことで、その志を達成するための具体策がみえてきます。具体的な行動をとることで改善すべき点や工夫すべき点に気付き、工夫・改善した新たな具体策がみえてきます。このような計画→行動→工夫・改善を繰り返し、努力を重ねることで志が達成できると思います。

「主体性を高める」の「主体性」とは、「自ら考え、判断、行動し、行動した責任まで負う。」という意味になります。

1年生の三学期から「〇〇をしましょうか。」といった主体性がみられるようになってきましたが、まだまだ十分とはいえません。指示されて動くのではなく、周りの状況を見て一人一人が主体性をもって学校生活を送ってほしいです。



「はい 喜んで」

頼まれごとをされたとき、皆さんはどのような対応をとりますか。

「はい」と笑顔で対応する人。嫌な顔をして渋々引き受ける人。友達が頼まれたの見て近くに自分にも頼まれるのではないかと思いその場を逃げる人。

頼まれごとは試されごとといわれることがあります。頼まれごとをされたとき、どんな対応をするのか、頼んだ方は試しています。人によっては、頼んだこと以上のことができるかどうかを試すこともあります。

「はい」と笑顔で対応されると、頼んだ方も「この人に頼んで良かった。この人が困っているときは助けてあげよう。」「この人のために何かしてあげよう」と思うものです。

嫌な対応されると、頼んだ方は「二度と頼まない。」「この人のためには何もしたくない。」と思うものです。

良い対応をとったら良い対応をされ、悪い対応をとったら悪い対応をされる。結局は、自分のとった行動が自分に返ってくることになります。ある意味、このことは当たり前のことなのかもしれませんね。

頼まれごとは試されごと。

頼まれごとをされたとき、笑顔で「はい」や「はい 喜んで」と言える人になってください。